

八潮のまちを知ろう！

プロジェクト概要

2008

このプロジェクトは、八潮市において推進すべき「八潮らしい街並みづくり」に向け、八潮の特性を活かした住環境設計プロジェクトを提案するとともに、その中から、街並み景観に大きく影響を与える建築物に着目し、共通する建築様式(コード)を抽出し、素案を策定することを目的としている。5大学の研究室による多くの意見を取り入れるために、唯一「八潮の街並みの特徴をつかむ」という方針を設定するに留め、自由な調査を行うこととした。その結果、ヒューマンスケールの視点や、エリアを対象としたマクロな視点、市民の生活実態を対象とした視点など、様々な視点からの調査が行われた。

フィールドワークプロジェクト

Fieldwork Project

2008.5.31 - 9.15

第1回ワークショップ

1st Workshop

2008.5.31 - 6.1

- | | |
|--------|------------------------|
| 茨城大学 | 現地調査から6つの景観要素を抽出 |
| 信州大学 | 八潮市を3地域に分けて調査 |
| 東北工業大学 | 八潮市の4つの特徴ある風景(地区)をとらえる |
| 神奈川大学 | スケールの違う4つの特徴をつかむ |
| 日本工業大学 | 北部、東部、西部、駅周辺の地域別に特徴を発見 |

第2回ワークショップ

2nd Workshop

2008.7.19 - 7.20

- | | |
|--------|--|
| 茨城大学 | 「畑プロジェクト」「場所探しプロジェクト」などのプロジェクトを提案 |
| 信州大学 | 用途地域、用途地域の境界、交通動線の境界などで起こっていることの調査 |
| 東北工業大学 | TX沿線の調査を行う |
| 神奈川大学 | 「住・農・工の混ざり合い」のもと、「奥行き」「境界」などの5項目について調査発表 |
| 日本工業大学 | 「水路両脇にあるフェンスの使い方に関する視点」などの4つの視点を発表 |

景観調査から八潮の「要素特性」を抽出

水路

- ・市内に無数に張り巡らされており、重要なインフラとして捉えられている
- ・住宅と工場に挟まれた水路空間は、街のバッファゾーン(緩衝地帯)となっている
- ・水路際のフェンスの多様な利用方法が独特である
- ・住宅の間に水路が多く通っており、住宅と水路の一体的利用が見られる

高架

- ・八潮に存在する大きな構造体である
- ・TXの高架のスケールを、住宅のスケールと近づける必要がある
- ・様々な用途地域を分断しているが、空間を介して要素同士を繋いでいる

広域農地

- ・八條地区に広がる広域の農地(田畑)は、自然の風景を残す意味でも重要なエリア
- ・中川遊歩道から広がる堤防沿いの風景(中川・農地など)は、八潮市で最も雄大な風景

河川

- ・河川や用水は、八潮の市民にとって身近に感じる場所
- ・水辺へのアクセスが悪く、そのポテンシャルを発揮できていない

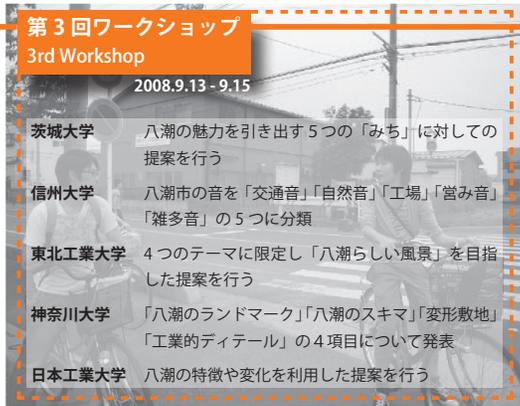
鉄塔下

- ・市内には100本以上の鉄塔が立っている。しかも八潮市の地形が平坦であることや、高層の建築物があまりないこともあり、どこからでも見つけることができる

未利用地

- ・放置されたように見えて、実際には近隣住民の生活の中で活用されている緑地が多い
- ・駅南側の色々な場所で大小様々な盛土が見られる

フィールドワークは続いていく



用途混在

- ・住宅、畑、工場が隣接している場所が市内に点在しており、この点在する3点セットは、ほぼ同じスケールのものとなっている
- ・上の階が住宅で、下の階が工場や商店のような住宅が多い。特に下の階が工場となっている物件が多く、工場誘致を進めてきた市の施策を伺うことができる

工場製品

- ・一般的には使用されない材料(単管、H鋼など)が住宅や街中で使用されており、街並みにも溶け込んでいる

変形街区

- ・余剰空間や、変化がある入り組んだ街区は、空間的に路地のような面白さがあり、新たな街並みの可能性を感じる
- ・市内には、三角形や台形など変形した敷地が多く存在する。これらは、旧街道をはじめ高速道路や鉄道などが、市内を斜めに縦断していることなどから発生している

人の往来

- ・八潮市は4つの市や区に囲まれた内陸の市であり、市内外の人々が、様々な目的により市内から市外へ、市外から市内へ移動する

混在する音

- ・八潮市は土地利用が混在しているように、工場の音、水の音、子どもたちの声も混在し発生する

街並みをつくる要素を抽出

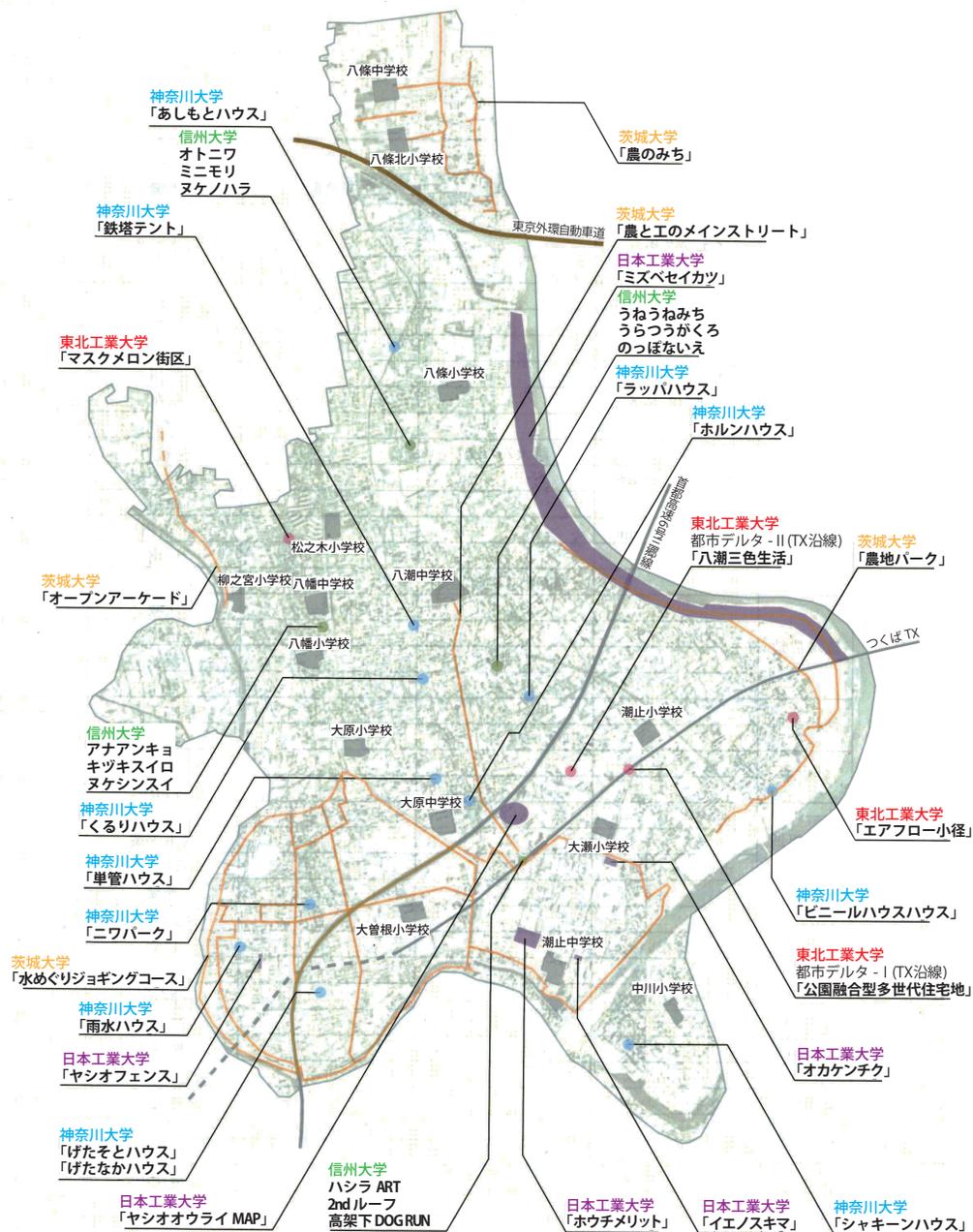
各大学によって行われた景観調査から街並みをつくる要素を抽出し、それらを基に八潮全域にかけて様々な提案が行われた。

多角的な視点を取り入れるために、各大学の方針に基づき自由な研究を行うことにした。その結果、同じ要素を抽出しても、全く逆の発想からアプローチした提案などが現れた。

研究は住宅自体を利用するものから広域的な範囲を利用するものまで、スケールの違う様々な分野で行われたが、大きく3つに分類できた。一つ目は提案型である。これは要素に色々な仕掛けを施すことで、要素を印象的な存在にする方法。二つ目が創出型で、これは要素を最大限に利用又は活用するために、周辺の環境や景観自体を創出する方法である。三つ目は、提案型と創出型を同時に利用する複合型である。これらの手法を利用し、最終的には39の提案が挙がった。

建築様式の素案

建築様式（コード）とは、街並み形成を図るため、該当する区域内における建築物の敷地、構造、形態、意匠などに関して一定の基準化をすることである。しかし、八潮市の場合には、市民のコンセンサスが得られる、古くから継承された街並み等が存在しない。そのため、調査から抽出された要素に視点を置きコード化を進めた場合、これらの組み合わせだけに着目した「建築物」が普及し、本来の趣旨である地域性を活かした街並みとの関係性＝家づくりの作法が見失われる恐れがあることがわかってきた。



▲提案されたものをまとめた八潮市の地図

住宅と街路の共存



水路という存在を住宅に反映させるのではなく、住宅と水路を共存させ、お互いがなければ存在しえない関係性をつくることで、八潮らしいより良い環境を目指す。水路と敷地は様々な位置関係があるが、あくまで「水路との共存」をテーマとした家づくりを目指すことが、将来の八潮の街並みをつくる上で重要である。

森の中の街



鉄道高架から見える敷地に高木を植樹することで、八潮市東部に広がる広域農地から連続した緑を生み出し、森の中の街を演出する。鉄道高架という構築物は、街並みの要素としてはスケールが大きすぎる。しかし、視点を変えて鉄道高架から見渡したとき、高木が住宅を隠すように生えていたら、まるで森の中に街があるような感覚を引き起こすかもしれない。

歩行者と住宅の目線



中川や綾瀬川、圀川などの河川が市内を通る八潮市では、これらの河川沿いに様々な風景が広がっている。こうした水辺の空間を歩行者空間として充実させ、住宅とのアクセスも考慮することで、多様な水辺の風景を楽しむだけでなく、市民の健康、そしてコミュニティを育む場となる。

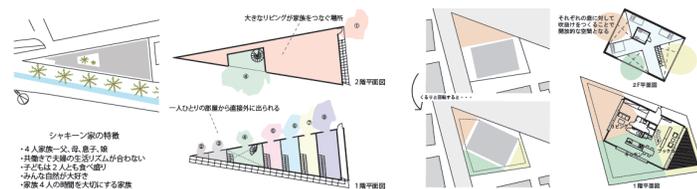
家と空地



街区単位の開発を行う場合は、どの宅地からも空地が見えるようにする。空地をつくることで、住宅からの視線が通り、コミュニティの場としての利用価値が高まるのが期待できる。このことは、現代の問題でもある近隣住民との付き合いの希薄さを解消してく上で、大きな可能性を秘めていると言える。

変形敷地

市内には変形街区がいくつか確認できるが、ここに住宅を設計する際には見通しの良い住宅配置とすることで、より良い環境づくりを目指す。変形街区では敷地に応じた建築形態となることが多いが、「敷地外からの視点」を取り込む家づくりは、変形敷地が多く存在する八潮にとって欠かせないテーマである。



用途混在



八潮メッセでの野菜販売イベント開催時の様子

未利用地



工業製品



鉄塔

